

WEEKLY SIGNAL

2020年12月4日(金) 1553号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/7(月)	12/8(火)	12/9(水)	12/10(木)	12/11(金)
無担保O/N			△ 0.087%	△ 0.001%	
銀行券	△ 500	△ 2,000	△ 2,000	△ 3,000	△ 3,000
財政他	△ 4,600	+ 16,000	△ 26,000	△ 29,000	+ 6,000
資金需給	△ 5,100	+ 14,000	△ 28,000	△ 32,000	+ 3,000
主要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(5年)	国庫短期証券発行・償還(6M)	国債発行(20年)
オペ期日	CP等買入 △ 100 国債補充供給 + 300 社債等買入 △ 400				
オペスタート	国債買入 + 5,600 CP等買入 + 6,000				
(日本)	景気先行CI指数(10月) 景気一致指数(10月)	GDP(3Q) 国際収支(10月)		景況判断BSI(4Q)	
(海外)	中国 貿易収支	米 非農業部門労働生産性(3Q) ユーロ圏 GDP(3Q)	中国 CPI・PPI(11月)	米 CPI(11月) 米 財政収支(11月) ECB 政策金利発表・総裁記者会見 EU首脳会議(11日まで、ブリュッセル)	米 PPI(11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初486兆8,000億円から始まり、12月1日の2年債の発行及び2日の税保陽換げにより、476兆6,300億円まで減少し、477兆3,900億円に越えた。無担保コールON物は、月末跨ぎによる調達サイドの慎重な姿勢はあまり見られず、先週末と同水準の堅調な地合いとなった。同加重平均金利は週初△0.032%から始まり12月3日までの間△0.030%~△0.029%で推移した。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.025%~△0.015%の水準で出合が見られた。来週の主な予定は、7~9月のGDP改定値、10月の国際収支の公表(8日)や10月~12月の景況判断BSIの公表(10日)などがあり、海外では米の11月CPI、PPIの公表(10日、11日)やEU首脳会議(11日まで、ブリュッセル)、中国の11月の貿易収支の公表(7日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.050 ~ 0.000
TDB 3M	△0.120 ~ △0.070
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約2,000億円で、週間償還額(約840億円)を上回った。石油業で大型の発行は見られたものの、週を通じて発行案件数は限定的であり、落ち着いたマーケットであった。発行残高は先週末の24兆5,696億円から、3日時点で24兆7,758億円に増加した。2日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円でオフアされた。結果は、按分レート△0.039%・平均落札レート△0.031%と前回(按分レート△0.034%・平均落札レート△0.027%)比で低下した。発行レートは、△0.05%割れ~0%近辺での出合いであった。来週の週間償還額は、約6,800億円程度となっている。10・15日スタート絡みの発行が見込まれるため、活況な取引を予想する。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合い中心と思われるが、CP等買入オペ見合いや新型コロナ金融支援オペ等の対象銘柄ではやや強いマイナスレートでの出

<TDB>

4日の3M956回債(3/15償還)の入札は、最高落札利回り△0.0837%(前回債△0.0856%)、平均落札利回り△0.0889%(同△0.0897%)となり、入札後△0.085%~△0.083%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.091%~△0.085%のレンジ、6M物が△0.098%~△0.095%のレンジ、1Y物が△0.139%~△0.123%のレンジで取引された。

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.080%近辺の出合からスタート。輪番オペと国庫短期証券買入オペが重なる27日受渡の取引は、レートの低下が警戒されたものの、△0.085%近辺と小幅な低下にとどまった。短期3M物の発行日で月末越えとなる30日受渡ではレートは上昇し、△0.075%中心の取引となった。週を通じて狭いレンジの出合だった。SC取引は2年408~418回債、5年137~145回債、10年340~360回債、20年169~174回債、30年59~68回債、40年12~13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。